

木材ニューズレター

(財)日本木材総合情報センター
TEL03-3816-5595 FAX03-3816-5062

木材製品の荷動き・価格先行き動向調査(19年11月分)

1. 調査実施期間 平成19年 10月20日～11月10日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の流通企業(問屋、仲買・小売商)に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。

11月分の回答企業数は36社、回収率は80.0%である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight. D. I. (ウェイト・ディフュージョン・インデックス) = { (「増加」の評価を行った回答の割合) × 2 + (「やや増加」の評価を行った回答の割合) - (「減少」の評価を行った回答の割合) × 2 - (「やや減少」の評価を行った回答の割合) } ÷ 2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向

表-1 荷動き Weight. D. I.

		19/11月	12月	20/1月
仕入動向	国産材	△ 19.6	△ 12.5	△ 13.0
	外材	△ 30.3	△ 18.2	△ 12.5
販売動向	国産材	△ 13.0	△ 18.5	△ 30.8
	外材	△ 17.2	△ 18.8	△ 22.6
在庫動向	国産材	△ 19.2	△ 17.3	△ 8.0
	外材	△ 25.8	△ 13.6	△ 6.3

仕入は国産材、外材とも大きなマイナスを縮めるが、依然マイナス基調で、年明けも引き続き弱含み模様。販売は国産材、外材とも大きなマイナスを一層大きくし、先行きさらに厳しく長い。
在庫は、国産材、外材ともマイナスを一気に縮め、小さなマイナスだが堅調気配みられる。

(2) 価格動向

表-2 価格 Weight. D. I.

品目	19/11月	12月	20/1月
スギ正角(グリーン)	△ 7.1	△ 2.4	0.0
スギ正角(KD)	△ 2.4	0.0	0.0
ヒノキ正角	△ 2.2	0.0	0.0
ヒノキ土台角	△ 2.5	0.0	0.0
米ツガ正角(現地挽)	17.5	7.5	0.0
米ツガ防腐土台角	15.0	12.5	7.9
米ツガ割物(現地挽)	7.5	5.0	2.5
米マツ平角	△ 9.1	0.0	0.0
北洋アカマツタルキ(現地挽)	△ 26.2	△ 9.5	△ 7.5
ホワイトウッド集成管柱	△ 45.0	△ 17.5	△ 5.3
レッドウッド集成平角	△ 23.5	△ 8.8	△ 5.9
型枠合板(国産)	△ 32.4	△ 8.8	0.0
型枠合板(輸入)	△ 34.2	△ 7.9	0.0
針葉樹合板	△ 47.2	△ 16.7	2.9

スギ正角(グリーン、KD)は小さなマイナス、ゼロとやや弱いが堅調。またヒノキ正角、土台も同様。米ツガ正角、割物、防腐土台ともプラス幅縮めているが好調である。米マツ平角もゼロと明るさでできた。
北洋アカマツタルキはマイナス幅で先行き弱い。
ホワイトウッド集成管柱、レッドウッド集成平角とも極大のマイナスを一気に縮めるが、マイナス基調に変わりなく回復の道のが全く不透明。
合板(針葉樹含む)は大きなマイナスからゼロ、小さなプラスと回復し、先行きの期待大。

1. 荷動き		コメント
仕入 動向	米マツ一般材丸太では、米材の輸出価は10月も小幅下げ、カナダ材はストが終了したが出材は少なく、強含み。輸出価よりもフレート高が大きくコストに影響し、問屋の仕入れコストは高い。(東京:問屋)	
	安値のスポット品も見られなくなったが、産地価格は依然として高止まり。10月に多くのサプライヤーが来日し現状を見て帰ったが、11月の商談にどう反映されるか心配。(東京:問屋)	
	カナダのストは終わったが入荷の回復までは後数ヶ月掛かる見込み。カナダドル高が深刻である。(東京:問屋)	
	内地挽きアカマツタルキの良材が極端に少ない。(東京:問屋)	
	カナダスト終了だが、現実に荷が入るのは12月20日過ぎの為、更に11月の手当てが困難の極み。(東京:問屋)	
	荷動きは先月に続き細かいながら忙しいが、顧客の在庫増までにはいっていない。先の見通しは不安がいっぱい。(東京:問屋)	
	荷動き悪い為、仕入れは極力押さえている。(東京:問屋)	
	売れ行き不振で仕入れも少なくなっている。(東京:問屋)	
	11月末から入荷順調になりそう。(東京:問屋)	
	東海地区産の丸太の出は順調。新材の季節なので在庫を増やす予定。(東京:問屋)	
販売 動向	相変わらず非常に厳しい。売れないから仕入れないのパターンが繰り返されている。(東京:仲買小売)	
	9月11日の周年市では買方さんの来場も多く、ヒノキ太角・役柱等に積極的な買いが見られたが、その後二回の市は売りが止まり仕事量の無さが伺えた。(東海:問屋)	
	年明けには確認申請問題も落ち着くのでは。景気は落ち込み加減だが需要は幾分回復すると期待。(東京:仲買小売)	
	米マツ製材メーカーの買い意欲は乏しく当用買いが続いている。大手港湾製材品の値上げが更に追い討ちをかけている。(東京:問屋)	
	見積りも徐々に増えているが、特種寸法に欠品が出ており、対応が難しい。(東京:問屋)	
	徹底した当用買いで苦労している。価格が厳しく出血販売している状態である。(東京:問屋)	
	先月同様、あれば売れるが入荷減の為、先行きの米材離れが心配。(東京:問屋)	
	円高傾向で仕入値下がるが販売量減少の為、売値は維持したい。(東京:問屋)	
	無垢材役物の動きは、柱材は皆目ダメ。造作材・別注品に多少の動き。(東京:問屋)	
	構造材は売れ行き不振で底が見えない。(東京:問屋)	
在庫 動向	リフォーム部門(工事部)は忙しいが、販売は開店休業状態が続いている。(東京:仲買小売)	
	10月末より仕事が止まり、今月に入ってもまとまった仕事が出てこない。今年はこのまま終わってしまうかもしれない。とにかく売れない。(東京:仲買小売)	
	客筋の工務店は完全にストップ。まだ2ヶ月を残しながら今年も早終わりのあきらめの状態。また、今年は大工・工務店の高齢化による減少が懸念される。(東京:仲買小売)	
	相変わらず厳しい状態。今年も秋需なしで終わりそう。(東京:仲買小売)	
	相変わらずWW小割の動きが悪い為、全体の売り上げも伸びない。先月に続き売り上げワースト。(東海:問屋)	
	米マツ丸太の各問屋手持ち在庫は多く、特に中目丸太がまったく動かず、在庫処分も出来ない状態。(東京:問屋)	
	埠頭の在庫も減少傾向、新規入荷が少ない事から欠品も目立つ。(東京:問屋)	
	入荷が少ないため在庫は減少しているが、次の仕入れのMDが立たず苦慮している。(東京:問屋)	
	注文材用などの特種寸法品の在庫は殆ど無い。(東京:問屋)	
	年内には適正在庫になりそう。(東京:問屋)	
いつ上昇に転じてもおおしくないの、いつも水準の在庫をキープしている。(東京:問屋)		
今年も過去最悪の年になりそう。(東京:仲買小売)		
相場が下がり気味のため仕入れを控えていたので、在庫が減ってきた。(東京:仲買小売)		
2. 価格動向		
スギ正角	羽柄材はやや弱いものもあり。(東京:問屋)	
ヒノキ正角	全く変化なし。(東京:問屋)	
ヒノキ土台角		
米ツガ	KD角もいよいよ在庫が無い状態で価格上昇。販売で特に注入土台の価格数量配分が厳しくなる。(東京:問屋)	
米マツ平角	KD材は弱い、グリーン材は横ばい。(東京:問屋)	
北洋アカマツタルキ	ダブつき状態が続く、特に下のグレードが売れない。(東京:問屋)	
WW・RW集成材	WWは11、12月積み価格提示後、底無し状況か…。(東京:問屋)	
	WW管柱は以前の在庫物が多く、現在値が下がっているが、仕入れは控えている。(東京:問屋)	
	RW平角はジワジワ値を下げているが、このあたりが底かもしれない。(東京:問屋)	
合板	ベニヤ類は特売時だけ仕入れるようにしている。(東京:仲買小売)	
	メーカーの思惑とは関係なくまだまだ値下がりの様相。しばらくは様子見。仕入れ時のタイミングが難しい。(東京:仲買小売)	
	在庫調整次第では価格回復もあり得ると考えている。(東京:仲買小売)	